

2024年度地域における看護職等の 連携シンポジウム

と き：2025年1月23日(木)
と ころ：北海道看護協会 (Web開催)
参加者：83名
報告者：事業部事業課

目的

医療と生活の質に視点を持つ看護職として、地域における健康と療養を支える看護職等の裁量発揮を知り、連携・体制づくりを考える機会とする。

北海道訪問看護ステーション連絡協議会活動報告

特別講演会・認知症や精神科、医療的ケア児の研修、地区研修の実施内容、関係機関の会議出席、合同会議など、訪問看護の任意団体としての活動報告がありました。

基調講演 地域包括ケアシステムの更なる深化・推進について ～誰もが安心して暮らし続けるための看護～

講師 北海道医療大学 看護福祉学部 看護学科
基礎・統合看護学講座 在宅看護学 教授 竹生 礼子

地域包括ケアシステムとは何か、現状の課題、深化・推進のために、多職種連携の重要性と看護の役割について、「整っていないことに対して、アイデア・工夫・提案・創造を！あきらめ・不満・批判で終わらない」、新しいものと古いものを両方使い、住民の意識改革も必要と、看護の課題についてご講義いただきました。



シンポジウム テーマ「地域における連携の実際」

座長：公益社団法人北海道看護協会 常務理事 山本 純子

稚内支部

市立稚内病院
医療支援相談局
地域連携支援課課長
横澤 恵



宗谷管内の第二次医療救急機関として救急医療を担い、かつ地域に根差した幅広い医療と看護の提供、退院支援・退院調整等の在宅支援に注力している。「てっぺんの会」は稚内市の多職種連携の場、フォーラムを開催し、住民へも「住み慣れた地域で最期まで望んだ生活ができる」ことを普及啓発しているという報告がありました。

留萌支部

北海道立羽幌病院
地域連携室副室長
石川 美樹



地域密着型病院の役割を担い、高次医療機関や近隣の介護施設との連携が欠かせない。介護支援連携面談や連絡情報シート、社会的バイタルサインを活用し、院内連携や地域との連携、多職種で支援が展開されているという報告がありました。

上川北支部

名寄市立総合病院
外来看護係長
宮腰 七蘭



増悪の早期発見が難しい患者さんが増え、医療だけで患者を支える限界があった。ICTは正確な情報で多職種でタイムリーに共有できるツールで、生活が見えることで看護に活かせ、医療-介護-行政の三位一体の連携を通して、地域が「元気になる！」という報告がありました。

質疑応答

Q：住民の意識を改革する上で重要なことは、どのようなことでしょうか？

A：地域活動として「終活」をテーマにした出前授業行い、家族への迷惑や介護の不担など暗いイメージより、明るい気持ちで自分の好きなよう、人生の最期をデザインするように継続的に声掛けをしている。

A：医師や各関係機関から在宅療養ができることを、住民に知ってもらうように、住民が行動できるように繰り返し説明していくことが大切です。

その他、「ICT活用」や「連携に関する記録活用の工夫」の質疑がありました。

参加者の声～アンケート結果より～

「どの講演も大変興味深く参考になった」「地域包括ケアの中で看護職が何を役割とするかお話しを聞いてモチベーションが上がりました」「地域との連携の重要性を改めて再認識できた」



前列左から

石川氏・宮腰氏・竹生教授・横澤氏

後列左から

高橋会長・山本常務理事